

3-4 高齢者福祉

平成17年高齢白書によると、平成16年の高齢化率は19.5%で、平成37年度には29.9%まで増加し、国民の3人に1人は高齢者と予測しています。本市の高齢化率は21.2%と高齢化が進行しており、世代間扶助のバランスを保ちながら、高齢者の方が生きがいを持って、元気に暮らしていただけるような高齢者福祉施策を検討することが必要です。

介護保険法の改正により、4月から従来の在宅介護支援センター機能と介護予防ケアマネジメント機能を兼ね備えた「地域包括支援センター」を設置します。当センターでは、1つは要支援の方や要支援になるおそれのある方への介護予防サービスの総合マネジメント、2つは高齢者や家族に対する総合的な相談・支援、3つは高齢者に対する虐待防止、さらにケアマネジャーへの支援を実施し、高齢者の方が住みなれた地域で、健やかに暮らせるまちづくりをめざします。

しかし、介護保険料の見直しなど高齢者のみなさんの負担増は避けて通れません。地元自治会やご家族の協力のもと、県内の市で最も安い介護保険料の保持と、超高齢社会に対応した施策の展開をめざします。



元気づくり体験の様子

3-5 障害者（児）福祉

これまで身体、知的、精神障害者それぞれに対して分かれていた福祉施策を、障害を区別せず、制度の一元化を目的とした「障害者自立支援法」が平成18年度から施行されます。これまでは本人の所得に応じた負担（応能負担）でしたが、新しい制度は介護保険同様に受けたサービスの1割を負担（応益負担）し、しかも、負担が可能かどうかの判定も家族を含めた同一世帯の所得を考慮する仕組みに変わります。

新しい制度では地域での生活支援や就労支援が強化されるとともに、支給されるサービスの決定に審査会の意見を聴取するなど透明化が図られます。

平成18年度は、タクシーの初乗り運賃の助成（障害者タクシー助成事業）、市内の授産施設に通所される重度障害者の方への補助（授産施設重度障害者加算事業）など市独自施策を実施し、障害者の方が自分らしく自立した生活を送れるまちづくりを進めます。

また、知的障害者の授産施設であるバンブーハウスの拡張移転については、国からの補助が全く期待できないこともあり、民間資金活用（PFI）方式も視野に入れ、施設整備を検討します。

3-6 阿下喜温泉『あじさいの里』

待望の阿下喜温泉『あじさいの里』が、ようやく3月21日にオープンしました。温泉の入浴料は安価な400円とし、健康福祉の増進や地域の活性化を図ることを目的に、併設のトレーニングルームと体験ホールで健康増進事業を展開し、温泉と合わせ相乗効果をもって、手軽で利用しやすい心身のリフレッシュの場としていきたいと考えています。

本施設を「健康の発信基地」として、気軽に参加していただく「元気づくり体験」や介護予防サービスの「すっきりコース」、エアロバイク・ウェイトトレーニングマシンで体を鍛えるトレーニングルームの運営などを、(社)元気クラブいなべに委託し、軽い運動でかいた汗を温泉で洗い流し、心身ともにリフレッシュいただけるようにします。また、青川峡キャンプパーク、農業公園などの観光施設や北勢線と有機的に結び付けるなど利用促進を図ります。



健康増進施設 阿下喜温泉「あじさいの里」

所在地：北勢町阿下喜788番地
問い合わせ先：☎0594-82-1126